

E
X
Q
U
I
S
I
T
E

S
C
U
L
P
T
U
R
E
S

THE Five Star Stories

妙なるGTM 造形の世界

Model Graphix

THE Five Star Stories
妙なるGTM 造形の世界

Gatexion Mark3 "Ritter Jet" Haretsu no Ningyou

Teiki Magna Palace The Knight of Gold

Zarathustra Apterbringer Pnzer kampf Roboter "Z.A.P."

GTM HORDA17 Die KAISERIN

Co-Lus Insignir ROBOTER HL-1 Hi Rhiannon SR3

Kampf Trukk Baga Ha Ri KK.BS,BS-R

Pzkipfrbt AM-G/C Grit Bringer

Mirage Concealed GTM Ausf H Hyfa Bringer

GATEXION Mk2 Mirage ausf S Speed Bringer

AUGE=H MORPHO

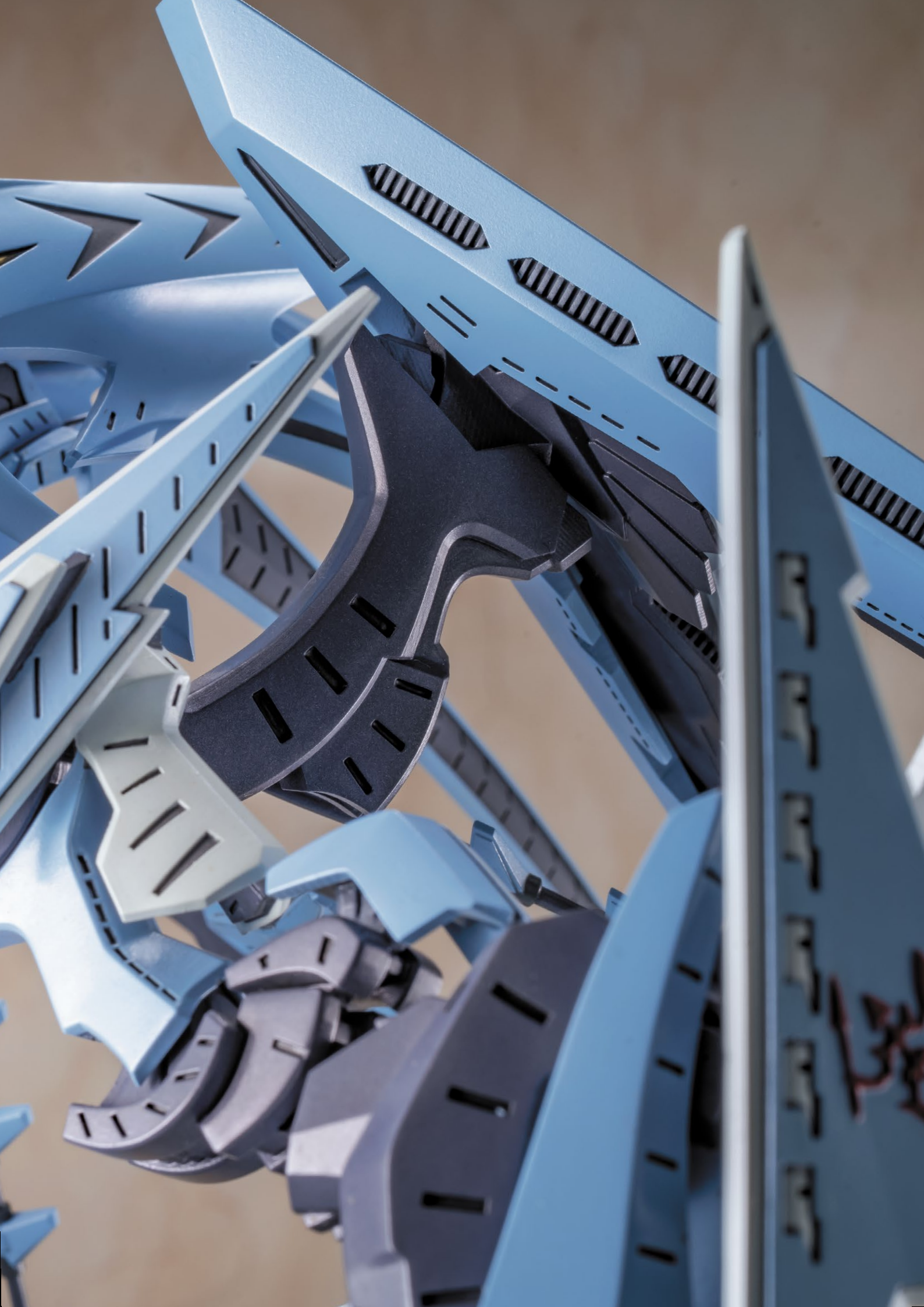
Bringer Ausf B3 SAI-SEI/ASTRAGURS

妙なる造形を愛でるGTM模型写真集

『ファイブスター物語』に登場するGOTHICMADE (GTM) のデザインが他と一線を画すのは、その内部構造から外装のラインに至るまで永野護氏の「機械、兵器、ロボットとはどういうものか」という深い洞察が込められているところにある。そのうえで、リアルロボットデザインの文脈を踏まえ、同時にその先を切り拓くロボットとしてのカッコよさが描き出されている。

それを立体で「模する」には、単になんとなくラインを追いかけるだけではだめだ。その本質を掴んだうえで、それを立体に落とし込まないといけない。そしてそのうえで、あの圧倒的な情報量をいかにまとめ上げるかという関門が造形家の前に立ちはだかる。トップクラスの造形家が持てるセンスと技術のすべてを投げうってなお厳しい頂。その意味でGTMの造形は数あるロボット造形のなかでも最高峰に位置するものと言えるだろう。本書は、そんな頂に挑戦し生み出された“妙なるGTM造形”の記録である。(森慎二)

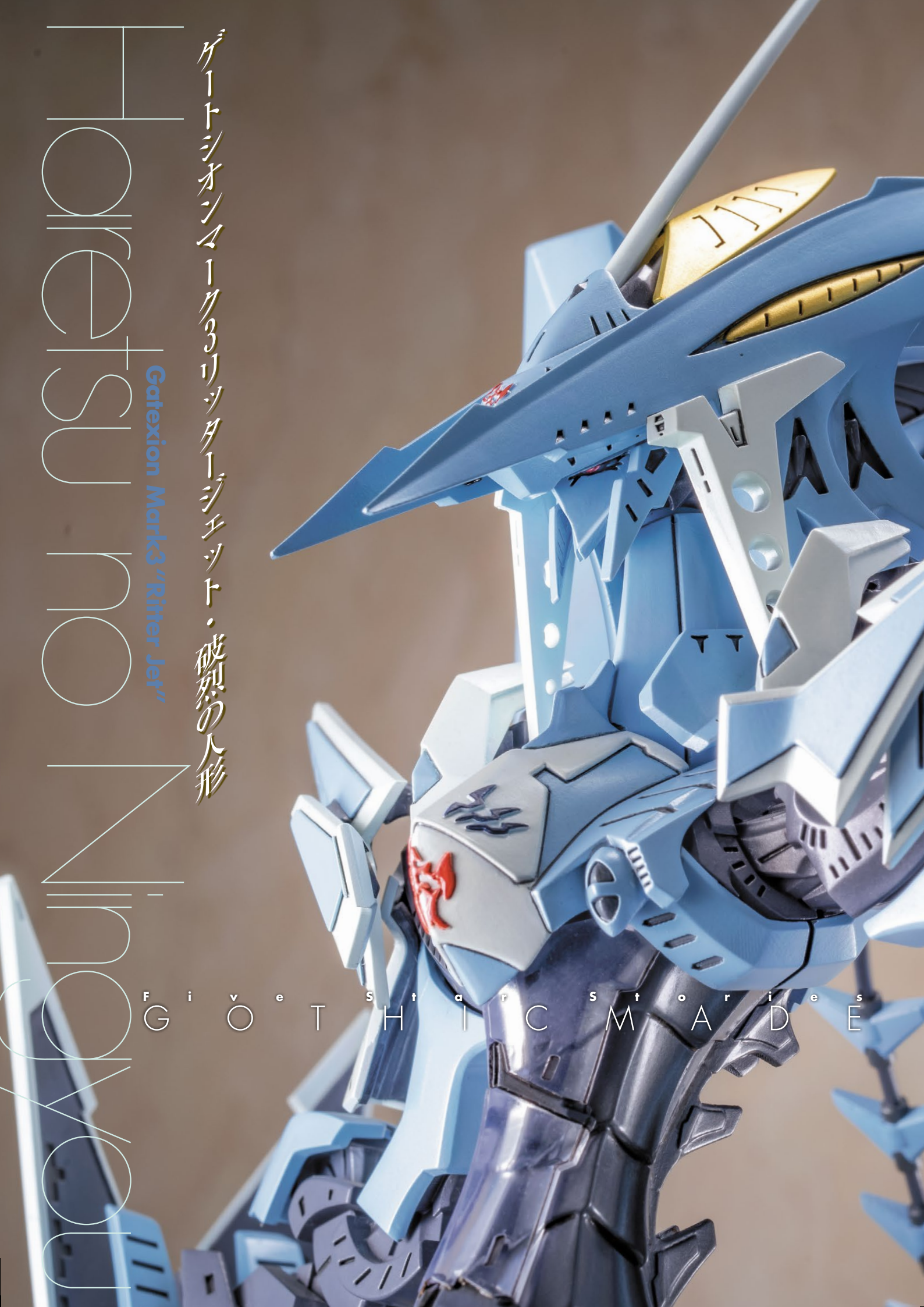




ゲートシオンマーク3リッタージェット・破烈の人形

Gatexion Mark3 "Ritter Jet"

F i v e S t a r S t o r i e s
G O T H I C M A D E

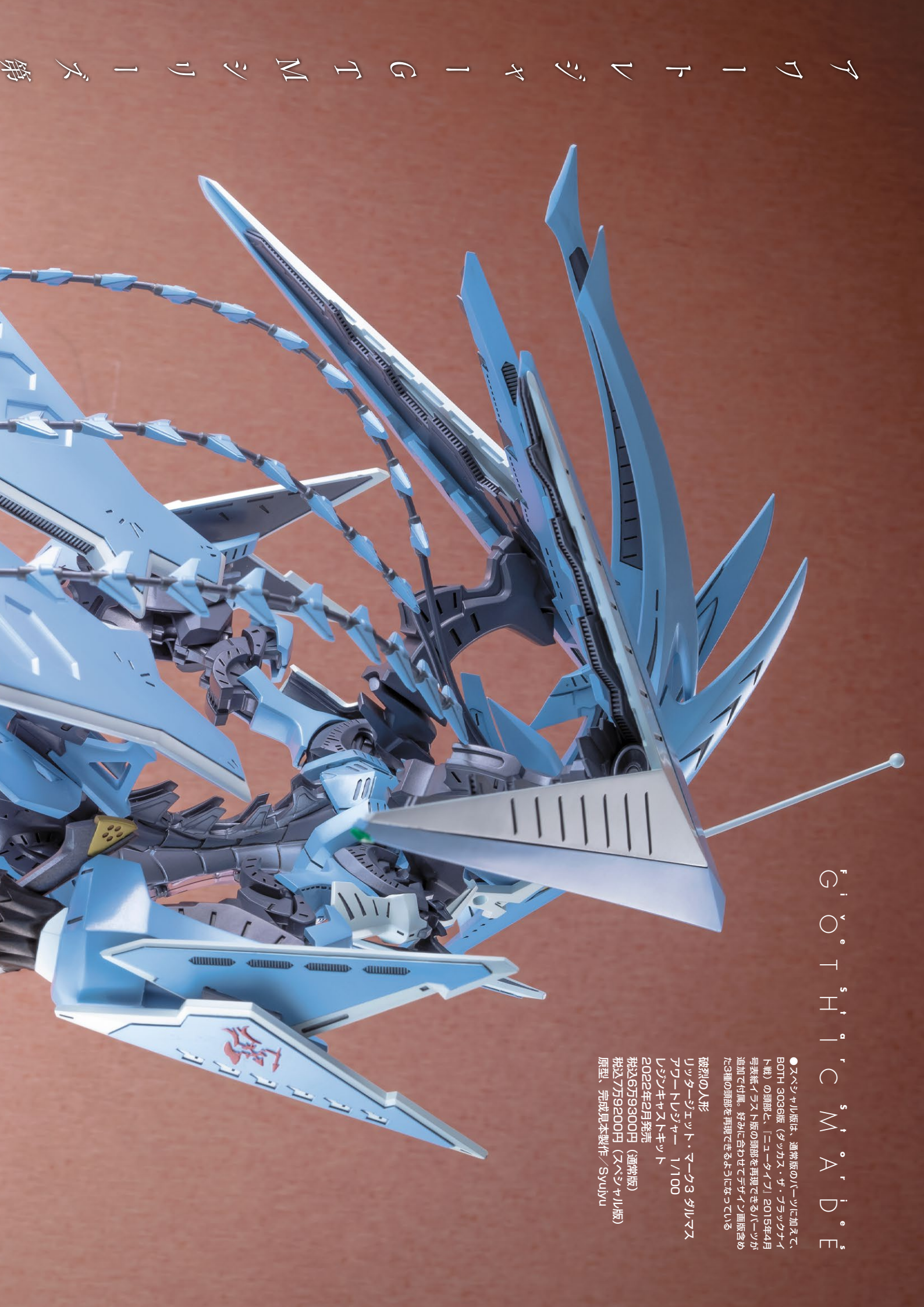


FIGHTING MODE

●スベッセル版は、通常版のパーツに加えて、BOTH 3036版（タカス・サ・ラックナイト戦）の頭部と、『ニュータイプ』2015年4月号表紙イラスト版の頭部を再現できるパーツが追加で付属。好みに合わせてデザイン画版含めた3種の頭部を再現できるようになっている

破烈の入形

リッターシエット・マーク3 タルマス
アポートレジャー 1/100
レジンキャストキット
2022年2月発売
税込6万9300円（通常版）
税込7万9200円（スベッセル版）
原型、完成見本製作/Syuyu



ア
ワ
ー
ト
レ
ジ
ヤ
ー
G
T
M
シ
リ
ー
ズ
第

一弾にキーなじゃ馬最強

Gatexion Mark3 "Ritter" ver.

PROJECT SUNN



本書のために改めて撮影した破烈の人形ですが、これは原型製作だけでなく完成品の制作も私が担当しています。かれこれ5年前の作品なのですが、材質は3Dプリンタでの出力品です。当時は経年劣化などでどれくらい保つのか想像もつきませんでした、とくに問題なく5年越しの撮影にも耐えてくれました。これを作る前まではレジン複製したパーツを見本製作に用いていましたが、これ以降は出力品をそのまま完成品に用いることが多くなりました。思い返せば、それまでは完成品に適した品質の樹脂がなくて、ちょうどこの製作のタイミングで、いまでも使用している樹脂がリリースされたのだと思います。マグナパレスに使った塗料もそうでしたが、造形がデジタルモデリングへと移行するとともに、出力用樹脂や塗料なども、GTMの独特な質感を表現するのに適したものがベストなタイミングで登場してくれました。まさに「時代の流れが来ていたな」としみじみと感じます。

これを造形した当時、全体のバランス取りには苦労した覚えがあります。原型完成直前まで腕のラインに悩んだのですが、最後の微修整でぐっとGTMらしいシルエットになりました。そのとき「GTMのバランスとはこういうことか」と腑に落ちたことを覚えています。ガレージキットの原型としては、掲載しているデザイ

ン画版の頭部のほかに本編登場版とニュータイプ表紙イラスト版の頭部の3種類を作りました。私としてはこのデザイン画版の頭部がいちばん気に入っていますが、いずれほかの頭部のバージョンも完成させたいと思っています。

塗装に関しては、これが初のGTM完成品だったこともあり、実際に塗装して組み上がったときには感動したことを覚えています。永野先生からは「デザイン画どおりの色のイメージで」と言われていましたので慎重に色を選びました。GTMの色選びのポイントはフレーム色にある気がしています。もうかれこれ6体のGTMを塗りましたが、一度もフレームに同じ色を使ったことはないです。基本はメタリックグレーなのですが、デザイン画を見ながらどういった色味を足すか毎回悩みます。白は緑味のある白で、装甲色は薄い水色ですが、できるだけ混色しないで済むようにベース色を慎重に選びました。

この破烈の人形はその後原型データを元にプラモデル化もされました。そちらには私はそれほど関わっていませんが、設計担当の元木さんが相当苦労されているのを横で見えました。そういった面も含めて、これまで製作してきたGTM原型のなかでこの破烈の人形がいちばん思い出深い原型になっている気がします。 ■

時代の流れを受けて形作られた、思い出深いGTM造形第一作

文 Syujiyu

Haretsu no Ningyou

Gatexion Mark3 "Ritter Jet"

F I V E T H I R D M A D E





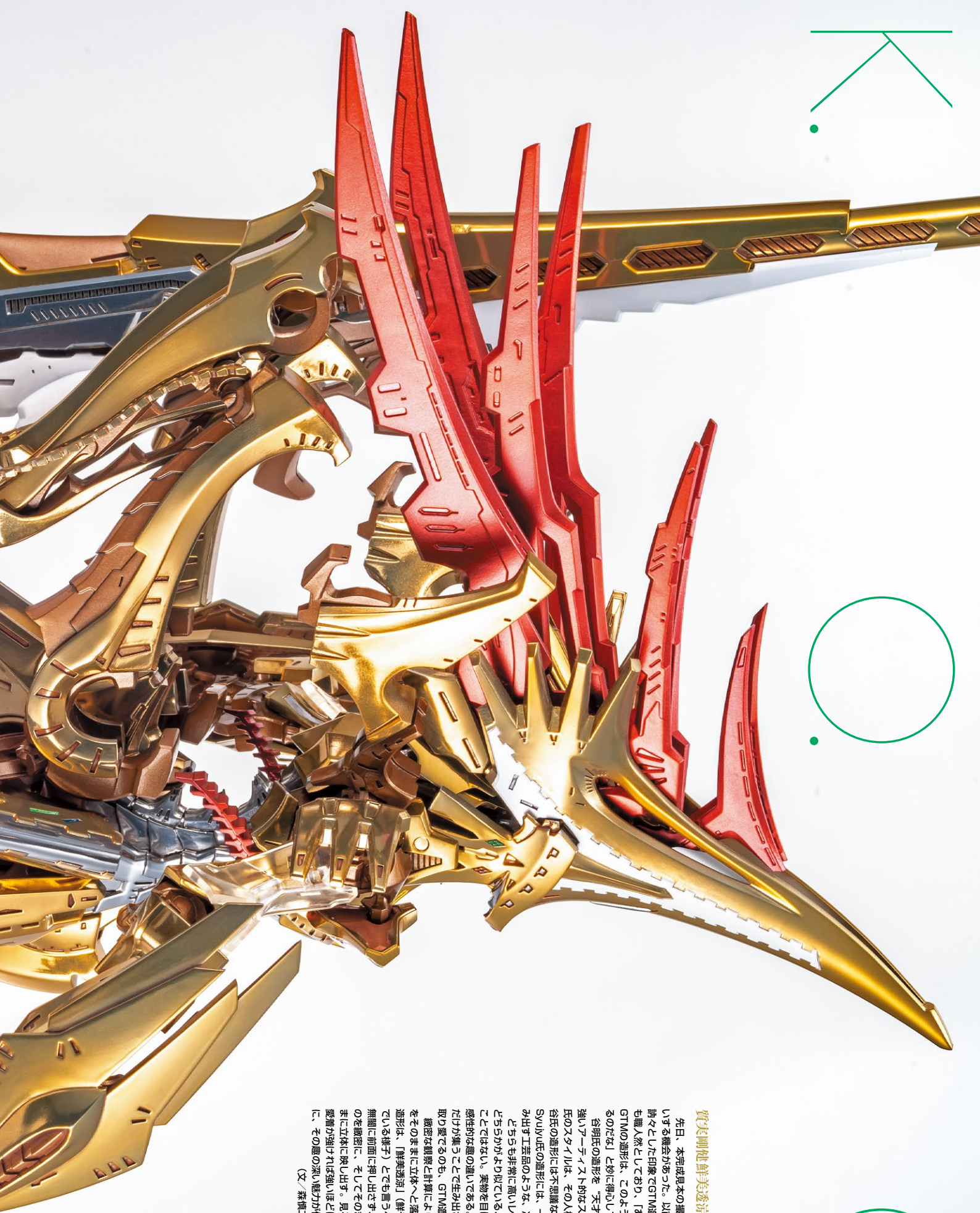
Teik: Magna Palace The Knight of Gold

F i v e S t a r S t o r i e s
G O T H I C M A D E





言葉に尽くせぬ美麗の粹。G T M の極点 K. O. G.



質実剛健 鮮美透涼、Syujyuu造形の魅力

先日、本完成品の撮影に際してSyujyuu氏にお会いする機会があった。以前お会いしたときと変わらす訥々とした印象でGTM造形について語る姿はいかにも職人然としており、「ああ、この優れて質実剛健なGTMの造形は、このような人となりから生み出されるのだな」と妙に得心してしまった。

谷明氏の造形を「天才的、言い換えれば作家性が強いフーテニス的なスタイルとするなら、Syujyuu氏のスタイルは、その人柄を映したように「職人的」だ。谷氏の造形には不思議な魅力かしらがあるというほう、Syujyuu氏の造形には、一本筋が通った熟練の匠が生み出す工芸品のような、凜とした行まいがある。

どちらも非常に高いレベルで造形されているので、どちらかがより優れている、あるいは優れているということではない。実物を目にしたときに造形から伝わる感性的な趣の違いである。極めて高いレベルの造形家だけが集うことで生み出される造形の趣、それを感じ取り愛でるのも、GTM造形の楽しみのひとつだ。

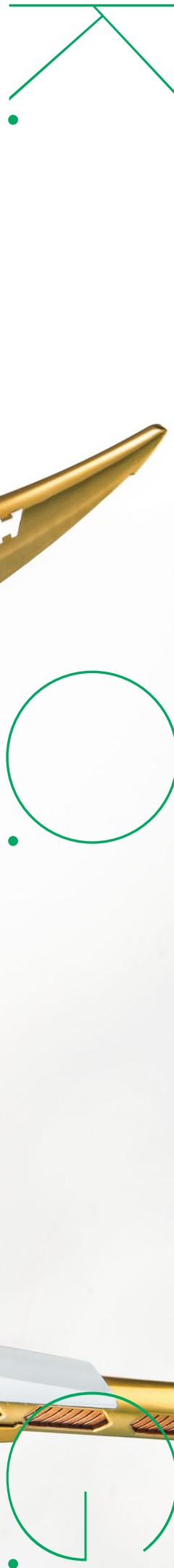
緻密な観察と計算により元デザインのリインと魅力をそのままに立体へと落とし込むようなSyujyuu氏の造形は、「鮮美透涼」（鮮やかで美しく、清らかに澄んでいる様子）とでも言うべきか。作家性やけれども無闇に前面に押し出す、元デザインに込められたものを緻密に、そしてそのままにすくい取り、ありのままに立体に映し出す。見る者の元となるデザインへの愛着が強ければ強いほどに、そして見入っていくほどに、その趣の深い魅力が伝わってくるのだと思う。

(文/森慎二 F.S.S.造形フロッパー)



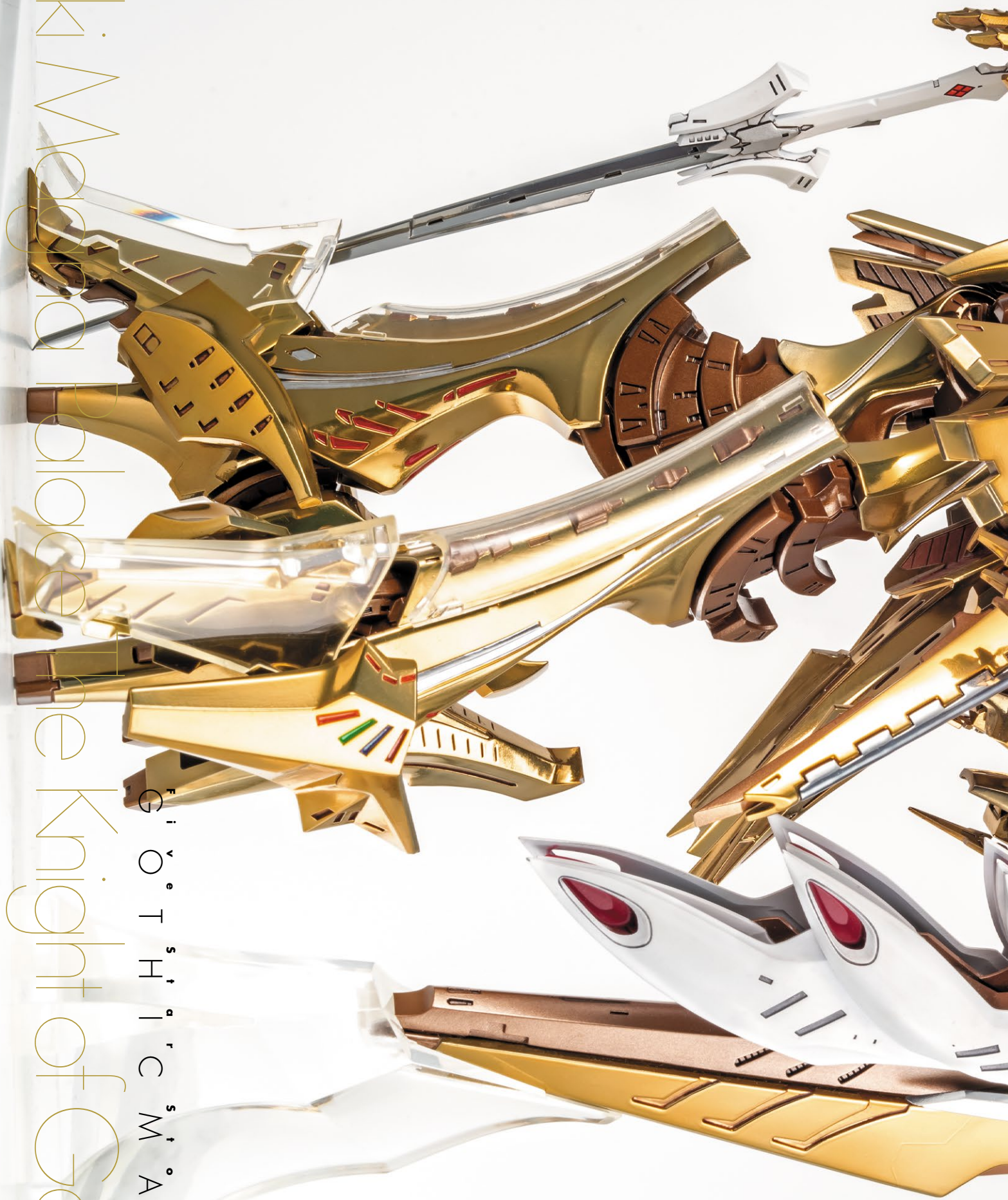
Tekknight of Gold

FIGHTER MODE



Teknoid: The Knight of Gold

FIGHTING MARDES





K.O.G.

F i v e S t a r S t o r i e s
G O T H I C M A D E

●金色の模型塗装にはいろいろなやり方があるが、一般的なのはシルバーやメタリック塗料の上にクリア塗料を重ねる方法。これはキャンディ塗装と呼ばれる手法で、色味の調整がしやすいが、顔料粒子が見えるので金属地むき出しの鏡面とは違う質感になる。そこでこのマグナバレスでは金属地鏡面にするためにSHOW UPのテラクロームというメッキ調塗料を使用。2液性ウレタンクリアーの上からテラクロームを塗ってクリアーレッド＋クリアーブルーを重ねるという工程を経ている。質感と色味にこだわり抜いたすえに仕上がった工芸品のような美しさをじっくりとご覧いただきたい



マクナバルスは造形面でも塗装面でもとにかく苦労した覚えがあります。さすが主役騎だけあってとても力の入ったデザインであるがゆえに、作っても作ってもなかなか終わりが見えませんでした。造形的なポイントとしてとくに気をつかったのは頭部の正面形状でした。デザイン画や詳細設定、本編の登場シーンなど、造形開始時にある程度の資料が出そろっていたのですが、頭部についてはほぼ横アングルのものしかなく、本編への登場も1コマだけ、ほぼ正面に近いアングルので登場するシーンがありました。基本的には横アングルの資料をメインに形状を把握して進めていたのですが、監修では頭部と胸部の正面形状に関する指摘が多かったです。とくに頭部は、「額の幅を広く、うしろに向かって広がるだけではなくラウンド形状に」と、前述の本編登場シーンの印象に合わせるような指摘をもらいました。永野先生としてはマクナバルスの頭部正面はやはりあの本編シーンのイメージなのだと再認識し、その印象を非常に大事にして造形しています。

バスターランチャーのサウンドについてですが、設定ではランチャーのハンドルをクリーンに引っ掛けています。しかし、それをそのまま模型で再現するのは強度や構造的になかなか難しく、思い切って台座を設けることにしました。接続部自体は設定どおりの解釈に収めることができましたし、これはこれでよい着地点になったのではないかと考えています。

あととはにかく塗装が大変でした。監修時の指定で、私自身それまで経験のなかったメッキ塗装にチャレンジすることになります。しかもパーツの出力も含めて完成までの猶予は1ヵ月程度……ひとつでも歯車が狂うと間に合わないというプレッシャーのなか、なんとか完成したときは本当にホッとしました。本当にいろいろなバースが奇跡的にかみ合っていた完成品で、もう一度同じように作ってくれと言われても、絶対無理でしょう（笑）。苦勞した甲斐があった完成品公開時にはそれまでにない大きな反響をいただきうれしかったです。原型データを元にしたプラモデルのマクナバルスを自分で作るからこそ、ゆっくり時間をかけてきれいに塗りたいと思っています。 ■

同じようには二度と作れない かもしれない奇跡的完成品

文/Syujyu

帝騎マクナバルス
ザ・ナイト・オブ・ゴールド
アポートレジャー 1/100
レジンキャストキット
2023年4月発売
税込9万7900円
原型、完成見本製作/Syujyu





TEKNOLOGI
KOMUNIKASI



9784499234573



1920076045004

ISBN978-4-499-23457-3 C0076 ¥4500E

定価(本体4,500円+税)

Zarathustra Apterbringer

Panzer Kampf Roboter

Gatexion Mark3 "Ritter Jet" Haretsu no Ningyou

Teiki Magna Palace The Knight of Gold

Zarathustra Apterbringer Panzer Kampf Roboter "Z.A.P."

GTM HORDA17 Die KAISERIN

Co-Lus Insignir ROBOTER HL-1 Hi Rhiannon SR3

Kampf Trukk Baga Ha Ri KK.BS,BS-R

Pzkrft AM-G/C Grit Bringer

Mirage Concealed GTM Ausf H Hyfa Bringer

GATEXION Mk2 Mirage ausf S Speed Bringer

AUGE=H MORPHO

Bringer Ausf B3 SAI-SEI/ASTRAGURS

Model Graphix

大日本絵画

©EDIT